

取扱説明書

バーグラフ指示計

形式
48V

ご使用いただく前に

このたびは、エム・システム技研の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

■梱包内容を確認して下さい

・指示計 1 台

■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

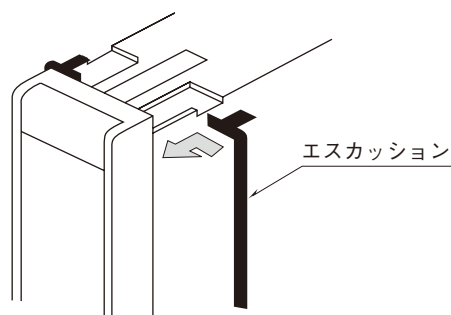
ご注意事項

●供給電源

- ・許容電圧範囲、電源周波数、消費電力
スペックラベルで定格電圧をご確認下さい。
- 交流電源：定格電圧 85 ~ 132 V AC の場合
85 ~ 132 V AC、47 ~ 63 Hz
定格電圧 170 ~ 264 V AC の場合
170 ~ 264 V AC、47 ~ 63 Hz
約 3.5 VA (48V - 1)、約 5.5 VA (48V - 2)
- 直流電源：定格電圧 24 V DC の場合 24 V DC ± 15 %、
約 2 W (48V - 1)、約 4 W (48V - 2)

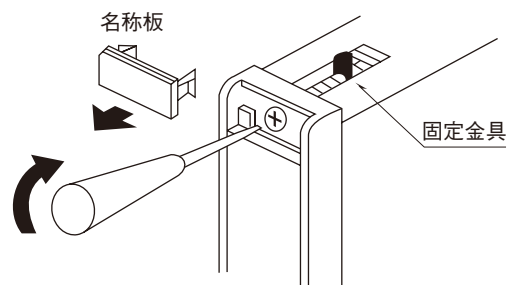
●取扱いについて

- ・エスカッションはケース内ポケットに一对入っています。取付方法は、エスカッション上下を図示のように内側からはめ込んで下さい。



・本体の取付方法

本体前面より上下の名称板を外し、ねじをドライバーで右に廻すと固定金具が出ます。そのまま固定されるまで廻して下さい。また、左に廻すと固定金具が外れ、取外せます。



- ・本体取付に対して放熱のため、縦取付時は本体より上下にそれぞれ 5 cm 以上の空間をあけて下さい。横取付時は左右にそれぞれ 2.5 cm 以上の空間をあけて下さい。
- ・アクリル板および目盛板は名称板を外しますと取外せます。

●設置について

- ・屋内でご使用下さい。
- ・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・周囲温度が 0 ~ 50°C を超えるような場所、周囲湿度が 40 ~ 80 % RH を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

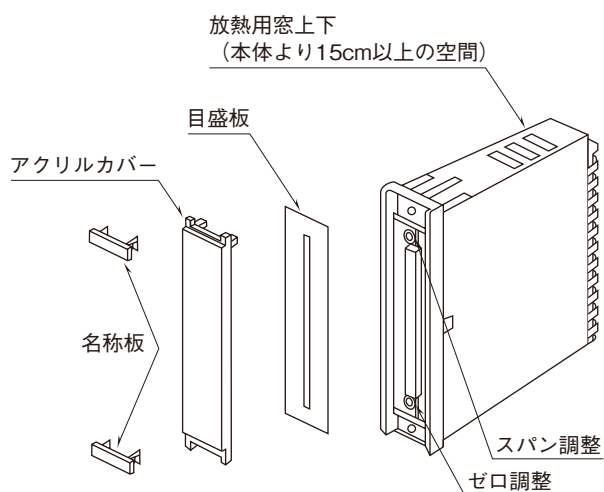
●配線について

- ・配線（電源線、入力信号線、出力信号線）は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。

●その他

- ・本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには 10 分の通電が必要です。

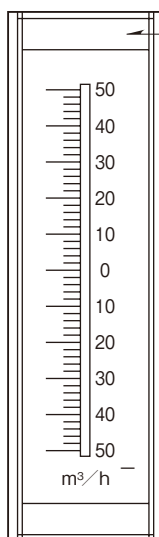
各部の名称



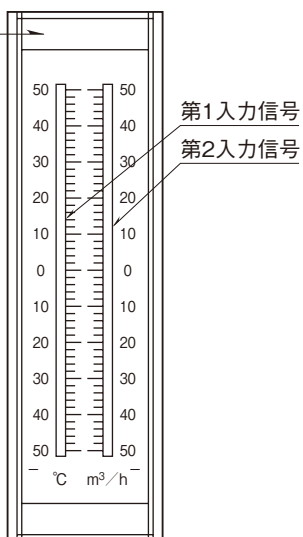
■前面図

■縦取付の場合

●1点用

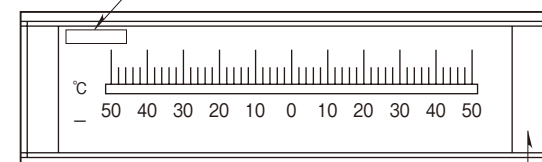


●2点用

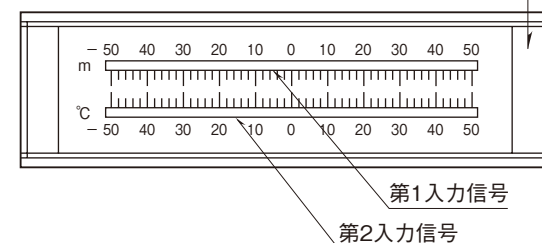


■横取付の場合

●1点用



●2点用



※1、4文字以上の単位記号は上図の位置に表示します。

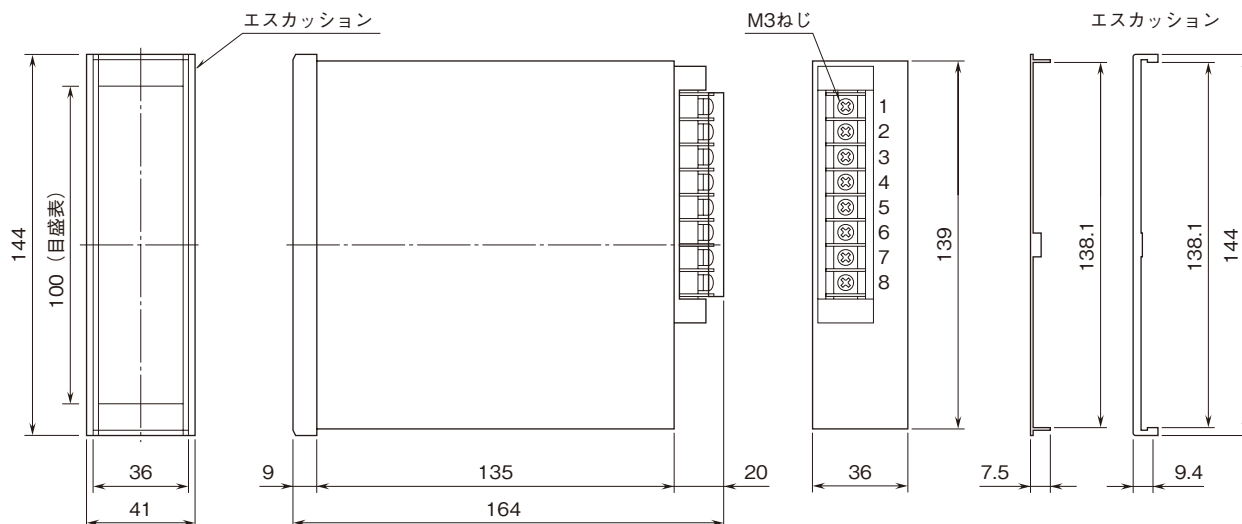
注、2点用で単位記号が1つしかない場合は、1点用と単位記号の表示位置および最大文字数が同じになります。

取付方法

■パネル取付

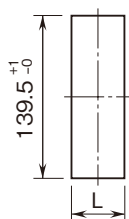
下記の外形寸法図・取付寸法図を参考に行ってください。

外形寸法図 (単位: mm)



取付寸法図 (単位: mm)

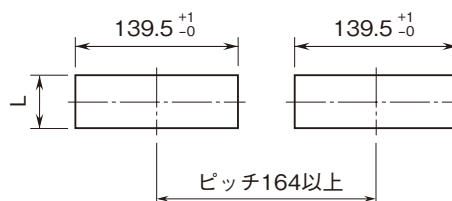
- パネルカット寸法
- 縦取付の場合



取付板厚: 1.6 ~ 5.5
 $L = (38 \times N)^{+1}_0$
 (Nは連結数)

- 注1、但し $N \geq 2$ の場合、本体間にはエスカッションが1個必要となります。
- 注2、本体取付に対し、放熱のため本体より上下にそれぞれ5cm以上の空間をあけて下さい。

- 横取付の場合



取付板厚: 1.6 ~ 5.5
 $L = 38 \times (N - 1) + 36.5^{+1}_0$
 (Nは連結数)

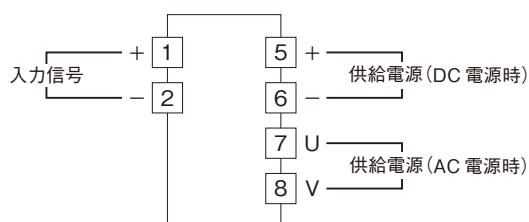
- 注1、但し $N \geq 2$ の場合、本体間にはエスカッションが1個必要となります。

接 続

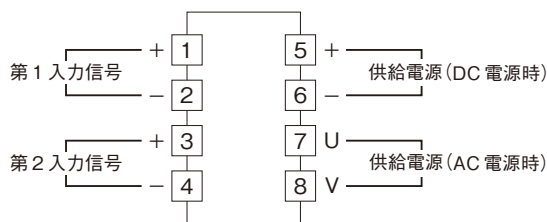
各端子の接続は下図を参考にして行って下さい。

端子接続図

■ 48V - 1



■ 48V - 2



調 整

本器は出荷時校正済みですので、ご注文時の仕様通りにご使用になる限りは、調整の必要はありません。ただし接続機器との整合をとる場合や定期校正時には、下記の要領で調整して下さい。

■調整方法

校正の場合は本器の基準精度に対し、十分精度を有する信号源および測定器を使用し、電源投入後 10 分以上経過してから行って下さい。

- ①模擬入力信号を 0 % 相当値に設定し、ゼロ調整で出力を 0 % に合わせます。
- ②模擬入力信号を 100 % 相当値に設定し、スパン調整で出力を 100 % に合わせます。
- ③再び、模擬入力信号を 0 % 相当値に設定し、出力表示がゼロを示していることを確認して下さい。
- ④ゼロ出力がずれているときは、①～③の操作を繰り返して下さい。

保 守

定期校正時は下記の要領で行って下さい。

■校 正

10 分以上通電した後、入力信号を 0、25、50、75、100 % 順で本器に与えます。このとき出力信号がそれぞれ 0、25、50、75、100 % であり、規定の精度定格範囲内であることを確認して下さい。出力信号が精度定格範囲から外れている場合は、調整の項目で指示した内容に従って調整して下さい。

保 証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後 3 年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。